

本講義資料のご利用にあたって

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

著作権が東京大学の教員等に帰属する著作物については、非営利かつ教育的な目的に限り複製および再配布することができます。

ご利用にあたっては、以下のクレジットを明記してください。

クレジット：

UTokyo Online Education 学術フロンティア講義 2025S 石井 剛



石井剛（2025年7月11日）

「文理融合」とは何の謂か

「脳化社会」の教養

教養とは世界の中でよりよく生活する
方法である。

1 教養の空間と時間

脑化社会

都市化＝生活空間の人工化

2 科学の時代

科学=分科の学

マックス・ウェーバー 『職業としての学問』

Wissenschaft als Beruf

学問に生きるものは、ひとり自己の専門に閉じこもることによってのみ、自分はここにのちのちまで残るような仕事を達成したという、おそらく生涯に二度とは味わえぬであろうような深い喜びを感じることができる。〔中略〕みずから遮眼革を着けることのできない人や、また自己の全心を打ち込んで、たとえばある写本のある箇所の正しい解釈を得ることに夢中になるといったようなことのできない人は、まず学問には縁遠い人々である。

マックス・ウェーバー著『職業としての学問』、尾高邦雄訳、岩波書店、1980年改訳版、22ページ。

情熱はいわゆる「靈感」を産み出す地盤であり、そして「靈感」は学者にとって決定的なものである。ところが、近ごろの若い人たちは、学問がまるで実験室か統計作成室で取り扱う計算問題になってしまったかのように考える。ちょうど「工場」でなにかを製造するときのように、学問というものは、もはや「全心」を傾ける必要はなく、たんに機械的に頭をはたらかすだけでやっていけるものになってしまったかのようにかれらは考えるのである。だが、ここで注意すべきことは、こうした人々たちの大部分が、工場とかまた実験室でどのようなことがおこなわれているかについてなにも知っていないということである。実験室でもまた工場でも、なにか有意義な結果を出すためには、いつもある——しかもその場に適した——思いつきを必要とするのである。とはいえ、この思いつきというものは、無理に得ようとしてもだめなものである。

(ウェーバー前掲書、23-24ページ。)

教養 (*Kultur, Bildung, liberal arts*)

College of Arts and Sciences

学問上の仕事がのちのちまで重んじられることもありうる、たとえばその芸術的性質のゆえに一種の「嗜好品」として、あるいは学問上の仕事への訓練のための手段として。

(ウェーバー前掲書、30ページ。)

それを欲しさえすれば、どんなことでもつねに学び知ることができるということ、したがってそこにはなにか神秘的な、予測しえない力がはたらいている道理がないということ、むしろすべての事柄は原則上予測によって意のままになるということ、——このことを知っている、あるいは信じているというのが、主知化しまた合理化しているということの意味なのである。

(ウェーバー前掲書、33ページ。)

3 「文理融合」とは何の謂か

総合知

(科学技術・イノベーション基本計画)

art
τέχνη, επιστήμη

artēs liberālēs

修辭、文法、論理、算術、幾何学、天文学、音樂

六芸

礼楽射馭書数

『漢書』藝文志

藝（執）＝種

樹執

文

「倉頡之初作書，蓋依類象形，故謂之文。」（許慎『說文解字』注）

古者庖羲氏之王天下也，仰則觀象於天，俯則觀法於地，視鳥獸之文，與地之宜，近取諸身，遠取諸物，於是始作易八卦。

許慎『說文解字』敘



理

「文理密察」 (『礼記』中庸)

「理，治玉也。」 (『說文解字』)

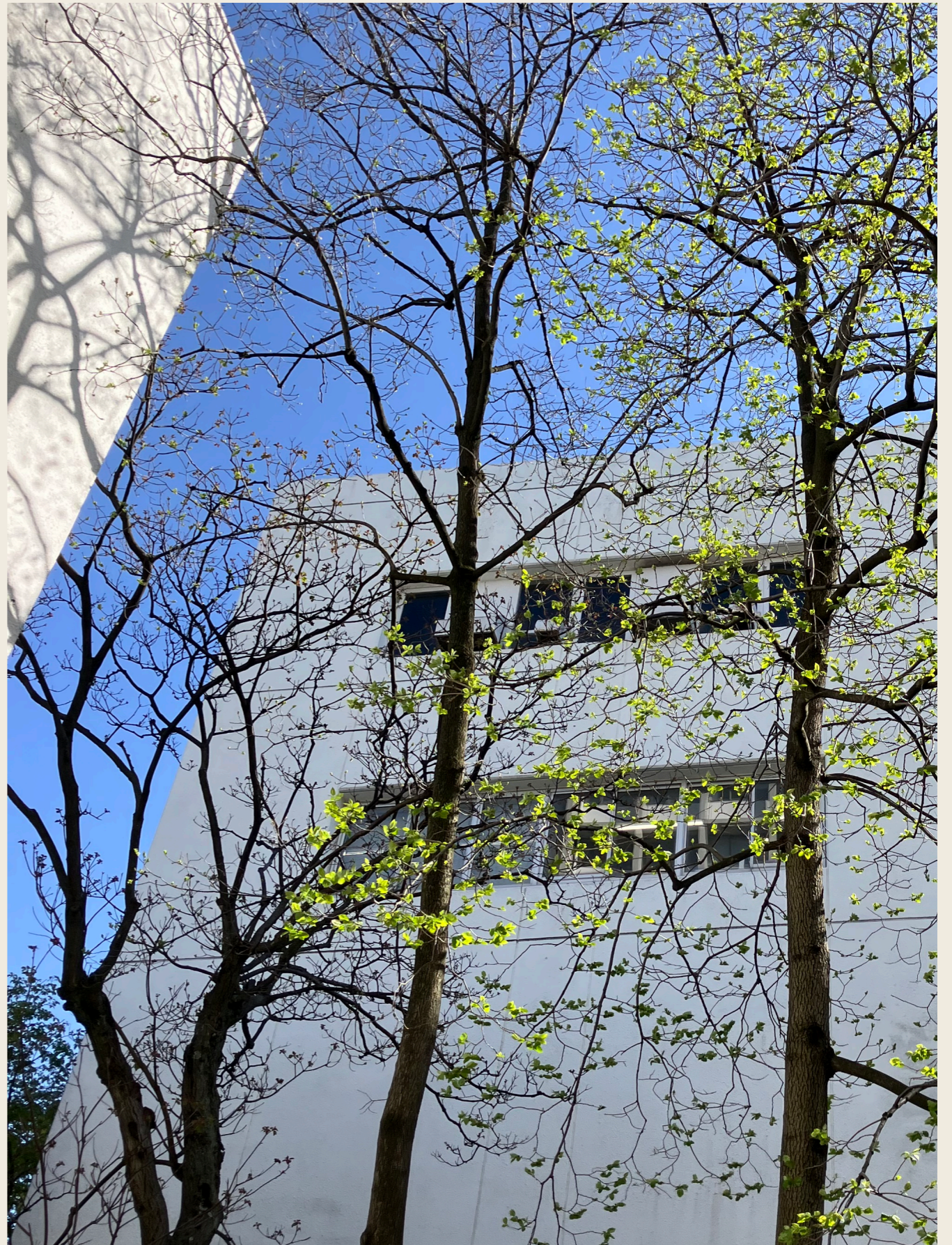
朱熹（朱氏）

格物、致知、誠意、正心、
修身、齊家、治國、平天下（『禮記』大學）

所謂致知在格物者，
言欲致吾之知，在即
物而窮其理也。

朱熹『大學章句』

「格致學」



中江兆民訳

アルフレッド・フイエ 『理学沿革史』

Histoire de la Philosophie

教養とは世界の中でよりよく生活する方法である。

技法＝アート

教養学部はアート＝技法を学問探究の対象として学ぶ場。

4 制度としての教養

費孝通 『郷土中国』

日本語訳あり：費孝通『郷土中国・郷土再建』（諸葛蔚東訳、東京大学出版会、2021年）

-
- すべてのことを知りたいという欲求
 - 無限の開放へのポテンシャル
-

社会的共通資本は、一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、豊かな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置を意味する。

社会的共通資本は自然環境、社会的インフラストラクチャー、制度資本の三つの大きな範疇にわけて考えることができる。大気、森林、河川、水、土壌などの自然環境、道路、交通機関、上下水道、電力・ガスなどの社会的インフラストラクチャー、そして教育、医療、司法、金融制度などの制度資本が社会的共通資本の重要な構成要素である。

宇沢弘文『社会的共通資本』岩波書店、2000年、iiページ。

「道枢」における「根源的中立」の マルチ・ステークホルダーシップ

『裂け目に世界をひらく』（2024年）、『空気はいかに「価値化」されるべきか』（2025年）
東京大学東アジア藝文書院（共に東京大学出版会）

よりよく生きるためのスペースを想像する：https://ocw.u-tokyo.ac.jp/lecture_2151/

空気の哲学としての新しいリベラルアーツへー責任と希望の学問：https://ocw.u-tokyo.ac.jp/lecture_2409/

マックス・シェーラー 「世界観」
イマニュエル・カント 「諸学部の争い」

VUCAの時代

東アジア藝文書院の目指す 「東アジアからの新しいリベラルアーツ」

- 「古典のある生活」こそが社会イノベーションの基点
- 脱脳化としての「（脳の）徹底的な人間化」

鳴謝

- ダイキン工業株式会社の皆さま
- UTokyo OCW事務局の皆さま：
石黒千晶先生、蔣妍先生、湯浅肇さん、佐藤芙美さん、岡本典子さん、白水浩さん、田中かおりさん、村松陽子さん、山本直美さん
- 東アジア藝文書院：渡辺理恵さん、深田めぐみさん、三野綾子さん、汪牧耘さん、劉仕豪さん、新本果さん、洪信慧さん、魏韻典さん、席子涵さん

